

第 9 3 6 回

臨時教育委員会会議録

日 時 令和 7 年 1 月 1 6 日（木） 9：00～

場 所 益田市役所第二会議室

益田市教育委員会

第 9 3 6 回 教育委員会臨時会

招集年月日 令和 7 年 1 月 1 6 日（木） 9 : 0 0 ～

招 集 場 所 益田市役所第二会議室

議 事 日 程

第 1 議 題

報第 1 号 「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画（後期）」の策
定に向けて

第 2 その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

領 家 芳 明
齋 藤 哲 瑯
原 田 笑
山 本 ひとみ
森 脇 達 也

事務局職員

教 育 総 務 課 長
教 育 総 務 課 長 補 佐

齋 藤 勝 義
植 田 拓 也

領家教育長 定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第936回益田市教育委員会臨時会を開催いたします。

議事に入る前に本日から森脇委員に新たにメンバーとして加わっていただきますので、森脇委員、ご挨拶をお願いいたします。

森脇委員 失礼いたします。森脇達也と申します。よろしくお願いいたします。

もともと中学校の教員として、中学校に勤めておりましたが、47歳のときに教育委員会で2年間ほど指導主事をやっておりました。その後中学校に戻り、57歳から2年間ほどまた教育委員会で、室長を務めさせていただきました。最後の2年間は、初めての小学校勤務でしたが、吉田南小学校で勤めさせていただきました。退職後は、実家の野良仕事を主にやっておりました、久々の教育現場となります。また教育に関わらせていただくということにつきまして非常にうれしくもあり、また光栄でもあります。どうかよろしくお願いいたします。

領家教育長 ありがとうございます。
それでは議事に入らせていただきます。

第1 議題

報第1号 「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画（後期）」の策定に向けて

領家教育長 本日は報告事項が1件となります。

それでは、報第1号 「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画（後期）」の策定に向けてについて事務局より説明を求めます。

齋藤課長 本日は、急遽ご参集いただきまして本当にありがとうございます。皆さんもご承知だと思いますけども、今後の小・中学校のあり方実現に向けた実施計画が今年が最後ということで、本年その見直しの時期になっております。これまで有識者で組織されました学校整備計画審議会に諮問いたしまして、この計画見直しに向けての事項について答申を先般いただいたところです。教育委員の皆様には簡単には12月の終わりのタイミングでご報告させていただきましたが、本日はこの答申内容につきまして詳しくご説明させていただきます。

詳細な説明につきましては植田学校再編整備推進室長からご説明させていただきます。

植田室長 それでは、説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、まずは審議会からの答申についてでございます。

昨年10月16日に益田市立学校整備計画審議会に対して、将来を担う子どもたちの望ましい教育環境に向けた学校配置の考え方として2点諮問を行いました。

1点目は、基本指針に基づくこれまでの取組に対する中間評価、2点目は、1点目の中間評価を踏まえた令和7年度から令和10年度までの小・中学校のあり方、これらの諮問事項に対しまして審議会において3回の審議を重ねられ、12月23日に実施計画中間評価と小中学校の今後のあり方として答申をいただいたところでございます。

答申内容につきましては、令和2年に策定した今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画の見直しに当たりまして、小学校期、中学校期それぞれに対する取組の中間評価並びに今後の小中学校のあり方に向けた進め方について、以下の通り答申いただきました。

小学校期における中間評価というところでございます。こちらにつきましては、地域の特色を生かした小学生の育ちの仕組みづくりについて一定の成果が見られることということで、地域と学校の連携を進める仕組みづくりとして豊川地区、また西益田地区の例を掲載しております。

豊川地区におきましては、学校と地域をつなぐコーディネーターの働きかけにより、小学校の学校保健委員会の中で児童のみならず保護者や地域の方々が集まり、1対1のテーマに沿って話し合うトークフォークダンスなど学校の中の行事に子どものみならず地域の人々とその保護者も集うイベントが開催され、地域と学校が連携協働しながら地域ぐるみで児童の育ちを支えているケースでございます。

また、西益田地区におきましては、子どもたちを中心に保護者のやりたいが芽生え、地域の人々と一緒になって教育に関する上映会や学校図書館リノベーションといった活動が生まれておりまして、小学生が多様な方々と出会う機会が創出されてきているという評価をいただいております状況でございます。

中学校期における中間評価というところでございます。こちらにつきましては、これまでの実施計画で示された再編に向けた具体的な考え方として3つございますけれども、1、真砂中学校と益田東中学校の再編、2、匹見中学校と匹見小学校の同一校舎での運営、3、小野中学校、高津中学校の再編についてというところでございます。

真砂中学校と益田東中学校の再編につきましては、生徒の育ちを第一に考えたいという真砂地区の意向により、令和３年度より益田東中学校との再編を行いました。再編後においては、校区の拡大を利用して、益田地区、豊川地区、真砂地区のそれぞれの地域活動における体験、交流を通して地域の方の思いを理解しながら、社会性を身につけるために多くの人々とつながってきたということです。また、公民館と連携し、実際に地域活動を体験することで、地域のために自分たちができることを考えて実行する６カルプロジェクトによって学校再編によって広域化した校区全体を自分たちの学習フィールドと捉え、郷土愛を育んでいるというところでございます。

匹見中学校と匹見小学校の同一校舎運営につきましては、通学距離、時間等の負担を考慮いたしまして令和３年度から町の中心部に位置する分庁舎、また保育所と隣接する小学校校舎において同一校舎による運営を開始しております。運営開始後におきましては、同一校舎の利点を最大限に生かしております、中学校の教員が小学校の専門教科を指導するなど効率的な運営を行っております。また、保育所、小学校、中学校が合同で地域住民を巻き込んで様々な行事を行うことにより、子どもたちと地域住民の交流の機会が増え、地域の活性化につながっているというような状況でございます。

小野中学校と高津中学校の再編につきましては、令和８年４月の再編を予定しております。小野中学校につきましては、再編で生じる通学面、学習面の不安に対しまして、再編の実施までに生徒が新しい環境に早く適応できるように再編先である高津中学校生徒との合同学習に取り組んでおります。実際に学校に通うこととなる同世代との学習を行うことにより、再編の不安感が少しずつ解消され、安心感が生まれているということが合同学習後の生徒へのアンケートでも表れているというところでございます。

これらの再編につきまして、単に学校再編をしたのではなく、地域のコミュニティーの核となる施設の建設、また地域の状況に応じた柔軟な再編が良好に進んでいるということで、再編後もこういった校区全体を自分たちのフィールドに移して取組を進められているという評価をいただいた状況でございます。

次に、今後の小・中学校のあり方に向けた進め方というところでございます。

こちらにつきましても、今後の基本指針に示す「学校を核とした地域づくり」を進め、小学校は原則として再編しないという考

え方の下、さらなる児童数の減少を見据え、ICTの活用や小規模における合同学習の充実、また学校と地域をつなぐコーディネーターの配置の充実と今後一層のコミュニティ・スクールの導入、検討が必要であると示された状況でございます。

続きまして、中学校のあり方に向けた考え方というところでございます。

基本指針に示しております令和10年度のところで1学年複数クラスを見込めないというところの中学校を検討いたしました。対象の学校が、横田中学校、中西中学校、匹見中学校、美都中学校でございました。

それぞれに検討いたしまして、横田中学校につきましては、今後生徒数が減っていくという状況の中でありますけれども、過去文部科学大臣賞の表彰を西益田地区として受けておられ、地域で子どもたちを支えているという状況があるということから、今後も見据えながら重視していくというところで、再編を検討しないという評価をいただいたところでございます。

中西中学校につきましては、平成30年のところで西南中学校と再編している状況、まだ再編してからの年数がそれほど経過していないというところで、地域の方の合意形成、また周知についても図れていないというところがあり、今後の動きを注視していくというところでございます。

匹見中学校につきましては、同一校舎運営を開始したところでございます。こちらについても年数が経過していないというところで、今後の動向を注視していくというところでございます。

美都中学校につきましては、今回再編を検討するという方向性が示されております。こちらにつきましては、昨年6月のところで保育園児から中学生までの保護者で構成される美都地区保護者協議会から意見書及びアンケートを提出されており、再編やむなしといった回答が63%を占めるというような状況で、再編を行わず存続することがよいという回答の20%を大きく超えたものというところでございます。また、今後の人口、児童・生徒の人数が横ばいであるという状況から再編を検討するということで審議会から答申をいただいているところでございます。

今後のスケジュールについては次のとおりとし、計画的に進めてまいります。1月下旬までのところで計画案を策定し、今月の定例教育委員会のところで計画案の協議、また2月12日には、市議会総務文教委員会調査会に計画案の概要説明、2月13日から3月4日までのところで計画案に対するパブリックコメントを

実施し、3月上旬に臨時の教育委員会で計画策定についての議決いただき、3月12日の市議会総務文教委員会で計画の策定報告をするというスケジュール案でございます。

説明は以上になります。

領家教育長

ありがとうございました。

今日の会議の流れについて先にご説明しようと思うんですけど、今事務局から今後の策定に向けてということでもいただいた答申の内容、それから今後のスケジュールというものを示させていただきました。続いて、より詳しい説明ということで、豊川小学校の学校保健委員会と、西益田小学校の学校運営協議会の資料を説明させていただきます。その後、ご質問を受けさせていただいた後にフリートークで計画に向けた思いですとか、お考えをお伺いする形で進めてまいろうと思いますので、ご承知おきいただければと思います。

それでは事務局から続けて説明をお願いします。

齋藤課長

審議会の中で、計画期間の9年間のうち5年間が終わりましたので、その中間評価と残りの4年間の方向性について教育委員会から諮問し、審議をいただいたという状況です。審議会の中では、特に地域と学校が一体になって行う何かということについて、やはりコミュニティ・スクールという学校運営協議会制度が進んだ地区がより活動をしているのではないかとということで、今資料をお出ししました豊川小学校、西益田小学校の動きにつきまして審議会の中で委員さんにもお話をいただいたという状況です。こちらの資料については、先日の益田鹿足教育委員会連合会に際し、コミュニティ・スクールという題で協議するにあたって、協働のひとづくり推進課の担当からご説明させていただいたので、下地は皆さんあるのではないかと思いますので、そのときに説明した資料をそのまま今回の臨時会に入れさせていただいております。

豊川小学校につきましては、通常では学校の中で行われる学校保健委員会の中で、先生の提案と地域とのつながりを持ったコーディネーターの働きかけによってトークフォークダンスという、保護者を含めた皆さんで色々な話ができる場を設けられたという動きがあったという話を聞いたと思います。これは、そもそも学校運営協議会があることによって地域と学校と保護者、そして子どもたちが一体になってこういう動きができているという例示というような内容でございます。こういった動きがあるということで、「学校を核とした地域づくり」が進んでいるということが見

受けられるんじゃないかというところが審議会の中でお話をされたという状況でございます。

西益田小学校については、実は文部科学大臣表彰を受賞されるということでお聞きしておりますが、そのときの資料をお配りしております。答申の中でも触れてはいますが、答申書の2ページ目のところの小学校期におけるこれまでの取組に対する中間評価というところの一番下の欄です。地域の人々が一緒になって教育に関する上映会をしたり学校図書館をリノベーションしたということですが、これはコーヒーなどの飲み物を持ち寄って色々な交流ができる場としての活用も行われているということです。小学生、地域の方、それから学校の先生方も利用することで、図書館をきっかけとして出会いを創出するという活用をされているとお聞きしています。そういった部分を審議会の中でお示しし、こういった動きが他地区にも反映されるべきではないかという答申もいただいたという状況でございます。

この答申の中の中間評価においては、今後こういうコミュニティ・スクールの動きについて一層の導入を期待するというのが答申の中で示されている状況にあります。

今後、答申を受けて計画を策定する上で、教育委員の皆様にもご意見を伺いながら進めていこうと思いますので、お感じになれることがあればお話いただければと思います。よろしくお願いいたします。

領家教育長

最初にいただいた答申の中身、それから今後の進め方のところでご質問等があれば伺って、その質問等が終わった後に、今後実施計画を策定するに当たって、この答申などを踏まえて皆さん方の思いなどを聞かせていただければと思っております。2段階の進め方で進めさせていただこうと思いますのでよろしくお願いいたします。

では最初に、いただいた答申の内容あるいは今後のスケジュール等々でご質問等ありましたら委員の皆さん方から伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

森脇委員

失礼します。たまたまですが、私、西南中学校と中西中学校の学校再編の場にいまして、西南中学校を閉めて、それから再編した中西中学校で1年間ほど勤めさせていただきました。地元、特に西南地区において、やはり地域の理解ということが非常に大きかったかなと感じております。地域の理解について、年数ももちろんかかると思いますが、特に自分たちの地域に学校がなくなる影響をどう理解していただくかというのが、子どもたちのために

これをやるんですよではなかなか通用しない部分もあるのかなと思っております。ですので、今後この実施計画を策定するときに、少し語弊があるかもしれませんが、メリットの部分を強く出し過ぎてもうまくいかないように思います。こんないいことがありますばかりではなかなかうまくいかないのかなというふうに私は思っています。

それと、こういう計画が出たときに、いわゆる報道機関はそれが既成事実のように報道します。例えば小野中学校、高津中学校の際にも、地元はまだそんな気持ちはないにもかかわらず、もう統合します、再編になりますというふうに皆さんが捉えてしまったというところがありました。ですので、計画の発表の仕方というのは結構難しいのではないかなと思っています。とはいえ計画は計画として出していかなくてははいけませんので、出すことはいいいとは思いますが、これ決定事項ではなく、地域で相談していただくためのご提案ですというところがうまく伝わればいいかなと思います。

齋藤課長

ありがとうございます。

従前校長先生として西南中学校の再編に携わられたというお話をお聞きしました。やはり言われますように保護者の理解もそうですし、地域の理解については、丁寧に対応していく必要性があると、私も前期実施計画の策定に携わった一人として感じております。平成30年度に再編した西南中学校と中西中学校の検証結果が答申の中の7ページに示されています。審議会委員の中にも旧西南中学校の当時保護者だった方もおられまして、この中西中学校の一番最後のボツがその委員さんからの意見になるのですが、西南中学校区だった二条、美濃の保護者や地域の方については、やっぱり再編した側ということがありますので、人数が減っている現状で考えたときに、再編によるメリットとデメリットをお分かりになっているということからも、次の再編に対して、ある程度の準備はできているのではという話でした。一方で、実際に再編を受け入れた側の旧中西中学校区の皆さんについてはなかなか再編といってもピンと来ないんじゃないかなというお話もありました。これは保護者だけではなく、おそらく地域の方も一緒ではないかなと思います。先ほどの話にも出ましたが、小野地区において最初に再編の話に行ったときも、地域はやはり反対でありました。計画としては出てるということは言いますが、そうはいっても地域の方はやっぱり学校がなくなったら地域が廃れるという思い、お考えを言われることが多かったと思います。そうい

った意味合いでも、学校再編の捉え方、考え方に開きがありますので、その地域に入っていく上で必要な準備はしっかりと行い、丁寧に対応していく必要があると、この間の再編の中でも感じたところです。その検証結果を踏まえて、9ページ目のところに再編に向けた具体的な考え方というのがあります。この中に、今回検証した4校の地区においては、やはり令和10年度以降も児童・生徒数の減少がかなり見据えられます。そういう状況から審議会の委員の皆さんからは、その減少していく状況を地域に周知をしておく必要があるんじゃないかというご意見をいただきました。その上で計画を立てたことによって進めていく場合もあれば、計画はないけれども、子どもたちの教育環境を考えていく中で話が進んでいく場合もあるかと思います。

この答申内容を受けて、今後につきましてやはり丁寧に進めていく必要があるかなと感じているところです。この辺りを計画の中にも反映させながら進めていければと思います。

以上です。

領家教育長

ありがとうございました。

報道機関の発表の仕方について少し触れられていましたが、そこについていかがですか。

齋藤課長

報道に関しては、計画を出した時点で私たちの思い、考えはお伝えしますが、やっぱり書き手がおられまして、その書き方を私たちが制限できない現状があると思います。例えば再編を検討する計画ですという話をするのですが、実際に出た紙面を見ると、再編ですという記事になることもあると思います。ここはやはり報道としての権限がありますからそれはそれとして、私たちが地域に出たときに地域住民、保護者に対する説明は丁寧にしていくべき必要があるのかなというようには思います。

領家教育長

ありがとうございます。そのほか皆さん方いかがでしょうか。

齋藤委員

よろしいでしょうか。

この答申を受けて、事務局はどのように手を打つかということになりますが、なかなか難しい問題です。全国的にみると、例えば空き家バンクを使って一時期に親子を受け入れている事例や、地元のホームステイを紹介して自然豊かな地で子どもたちにはアクティブな生活をさせたいと希望する人たちを対象とした留学受け入れをしている地域もあります。子どもたちの医療費や住宅費を補助するなどの財政的な支援をしているところもあります。

隠岐の島や大森町で非常に成果を上げていますので、これらを参考にするという方法はいかがでしょう。

齋藤課長

貴重なご意見をいただいたと思っています。

今回にかかわらず、まずこの実施計画の根本になっています今後の小・中学校のあり方に関する基本指針というものがございします。この指針というものは、益田市としては、ただ単に学校再編だけではなくて、時間をかけて人づくり、地域づくり、そういったものにつながる中で学校だけではなく、地域全体が一体になって子どもの教育環境を支えていこうという方向性を示して、それが小学校、中学校それぞれのあり方として示されたものになっています。今回のこの実施計画も、やはり子どもを中心に置いて大人がいろんな考え方、支え方をしながら子どもたちを育んでいくという流れになっているのではないかと思います。提起はいただきましたし、その辺りのところを含めてにはなりますけども、今後の4年間においてもやはり基本指針の考え方を踏襲しながら、もちろん子どもたちの最善な環境づくりに向けて、知恵を出し合って進めていければと思っています。以上です。

領家教育長

ありがとうございました。

次年度以降教育ビジョンの改定ということも大きな課題になっていますので、先ほどご提議いただきました意見を踏まえながら、また新たな取組をつくっていくときに参考にさせていただければと思います。

原田委員

美都中学校と益田東中学校の再編を検討された場合に、距離があることにも配慮されるということですが、その場合はどのような交通手段の体制になると見込まれるのでしょうか。

植田室長

真砂中学校が閉校し、真砂地区から益田東中学校に生徒が通っています。その真砂地区の生徒は現在スクールタクシーで通っておりまして、美都中学校についてもその方向での検討でございしますが、公共交通機関が使える場合につきましては、できる限り公共交通機関であるバスを利用するということでございます。時間的なところ、またバス路線外につきましては、真砂地区のようにスクールタクシーであったりスクールバスというような形での対応を今後地元の方と協議しながら進めていくように考えております。

原田委員

もう既に美都中学校から益田東中学校に通われている、校区外通学のお子さんもたくさんいらっしゃるということですが、その保護者の方からは送り迎えが大変だということも聞いているので、そういう方にとっては再編されると送り迎えの負担は減るのかなと思うのですが、その校区外通学の理由が部活動というのがすごく多いのではないかと思います。再編は一つの軸では

あるんですけれども、その理由が部活動となっている以上、部活動の地域移行という軸を明確に示して相互関係を保ちながら進めていかないと、どこかで弊害が生まれてしまう気がしています。部活動が理由だけど部活動は学校の外に移行しようとしている、でも部活動を理由に学校を変更しようとしている人がいる、その後どうなっていくのかというのが見えない状況の中、お子さんもどうしたらいいのか分からない、保護者もどうやったらいいのか分からないという状況になるのがすごく心配で、その再編と部活動の地域移行というのがちょっと明確な軸がビジョンとして見えるような形で丁寧に進めていっていただきたいなと思います。

植田室長

部活動の地域移行のところについては、今明確になっていないところがございますので、そちら等の整合を取りながら進めていきたいというふうに思っております。以上でございます。

齋藤課長

先ほど言われた部活動の地域移行の話です。基本、益田市としては期限を設けてお話をしていると思います。実は小野中学校の再編のときにも、そういった地域移行がありますという説明を保護者の方にしながら話を進めました。部活動の地域移行はありますが、再編は、やはり社会性を養うためにたくさんの同世代と過ごすことを大事にしていることや児童・生徒の減少傾向は続くという話をしますと、保護者の方もやはりそうだなというご意見をいただいたというところもあります。もちろん部活動は楽しいので、子どもたちも喜ぶということはあるとは思いますが、そういった部分は今後のこの美都中学校の再編を検討するということにおいて進んでいく中で部活動の地域移行のお話もしながら、とはいえ基本指針にあるそういった社会性を身につけるための同世代との関係をつくっていくというところも丁寧に説明していく中で進めてまいりたいと思っております。

山本委員

学校を核とした地域づくりを一方で進めていく、けれども学校再編も進めていくということで、原田委員さんの意見にも通じるところがありますが、地域の理解というのは、森脇委員さんも言われましたが本当に大事だと思います。先ほど、その計画が出たときに単に説明するのではなくて、今後の状況等を事前に説明していくというお話がありました。それはとっても大事だと思いますが、それを言う場やタイミングはさらに大事だと思っています。再編の話が来たときに、計画があることを初めて地域は知り、その計画は実はこうでしたということになると、なかなか話が前に進まないのではないかと思います。森脇委員さんも言われましたが、再編することのメリットを踏まえて計画を立てている

ということであれば、そういうことも合わせてしっかりと事前に、節目節目で地域に説明していくということも計画の中に入れてもいいのではないかなと思っています。児童・生徒の状況をお伝えするだけではなくて、教育委員会としてはこういうふうに考えていますとか、こういう話合いをしていますとかという辺りも併せて、地域へ説明をしていくといいのではないかなと思いました。

齋藤課長

ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。

基本指針をつくったときにこの基本指針の浸透を図るために全地区にこの基本指針の説明に参って話を聞いたという状況です。これを踏まえまして実施計画の策定をしたということになります。先ほどの答申の中でお話をしました4地区に関しまして、これは計画の中にありませんけれども、今後、児童・生徒のその後の状況を含めて、やはりそういった周知をしていく必要性があるという答申をいただいています。先ほどの山本委員さんのお話ではありますが、これはやはりある意味保護者の方だけではなくて、地域の方々でも参加できるような説明、周知ができる場というところをつくっていかないといけないかなと考えています。そういったものを含めまして、今後の計画の中に落とし込みながら整理をしてまいりたいというふうに思っています。

領家教育長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

一通り皆様方にご意見をいただいたのですが、次の定例教育委員会のときには後期計画という案を作成して、皆様方にまたご意見をいただくような流れになると思います。これから作り込みにしっかり入るところですので、ぜひこんなことも配慮してほしいとか今思われるご意見で結構ですので、そんなことがありましたら、事務局もまた参考にして計画づくりに活かしていけるのではないかなと思いますが、そうした視点で何かございますでしょうか。

齋藤委員

キャッチフレーズを作ってPRしようという意識が非常に強く感じられますが、学校に直接関係ない人や、子どもや孫が学校に行っていない人は他人事のようになってしまいますし、「学校と地域の連携」と言うと学校に通っている子どもだけが対象になりがちです。

退職して時間にゆとりのあるお年寄りがたくさんいますし、時間もゆとりもあって何かやりたいという人は結構いますので、これらの人たちの理解を図るためにどうしたらいいかを考える必要があるのではないのでしょうか。

そして、益田に住んでいる人たちが一緒になって子どもを育てていきましょう、何かあったら一緒になって考えていきましょうというような、行政の枠、学校の枠を外れて知恵を出し合うような機会を作ってもいいのではないのでしょうか。

齋藤課長

今回の計画の中においてですが、答申の4ページ目にあります真砂中学校と益田東中学校の再編のところを見ていただきたいのですが、皆さんご承知だと思いますけども、再編した真砂地区においては小学校だけじゃなくて保育所、公民館、診療所を集約させた益田市立の地域活性化交流館というものが建設されて、今運営されている状況です。ここの状況を地域の方に聞きますと、単にこの機関は、小学校、公民館、保育所だけのことかと言ったらそうではなくて、ここに書かれているとおり、お年寄りも含めた地域の方々が、本当に気楽に立ち寄ってここでお茶を飲んだりとか、公民館の人や子どもたちに声をかけてくれるとか、今日はこんなものを取ってきたからこれでちょっと遊んでみるかというような、お年寄りの方が気楽に来られるような雰囲気での施設を利用しているということをお聞きしています。学校を核としてという言い方になると、どうしてもその関係者だけが集まってくるという考えに至りがちなんですけども、実際にはこうやって幅広い層が活用できるような学校を含めた複合施設というところも近辺にはない施設になっていると思います。こういった部分が、新しく建てる複合施設だけではなくて、西益田地区や豊川地区も拠点になるような施設の整備をしようとしていますので、こういったところを地域の方、また保護者を含めていろんな方にもお話をしながら、問題点を解消できる取組に変えていけるような取組をしていけるかなと考えています。貴重なご意見、本当にありがとうございます。

齋藤委員

今、真砂の話が出たので、一言申し上げます。真砂は実は危機感が先にありました。人口減少が激しいこと、働く場所がなくなったこと、医療機関がなくなる状況があったこと、交通機関が止められるということなど、日常生活に影響する問題が一度に押し寄せてきたということです。

そこで、真砂地区の人々の間で「真砂の問題は自分たちで解決しよう」との気運が高まり、老若男女が参加して各種の実行委員会をつくって実践してきたのです。なかでも「教育の場は地域すべてだ」「地域の人たちみんなが先生だ」という発想から、保育園児が屋外活動に出ていくとお年寄りが一緒に行って、川で魚を捕まえたりドジョウを捕まえたり、お米や野菜作りなどを手伝っ

てくれるようになったのです。当然公民館との連携も十分に行われているのです。

領家教育長

ありがとうございました。

そのほか委員の皆さんいかがでしょうか。

山本委員

先ほどの件ですけれども、「学校を核とした地域づくり」というと最近をよく聞かれますけれども、地域の方々がそれを聞いて思い浮かぶイメージというのは人それぞれ違うでしょうし、地域ごとでも違ってくると思います。ですので、計画の中に「学校を核にした地域づくり」の注釈をつけて、考え方を少し明記してもいいのではないかなと思いました。

齋藤課長

ありがとうございます。

「学校を核とした地域づくり」という文言だけではなかなか難しいかなというのはよく分かります。皆さんが読んで分かりやすいような注釈を検討してまいりたいと思います。

森脇委員

言葉についてですが、学校を核としたと書いてあると、学校現場としては何かやらなくてはいけないというふうに捉えます。なかなか難しいかもしれませんが、学校に全部お任せとなると学校は走らざるを得ないという状況になりますので、注釈が大切ではないかなと思います。

それともう一点あります。特に小学校はこのまま残すというときに、評価の中にもありましたけれども、コーディネーターの存在はすごく大きいのではないかと感じておりまして、教員の負担感を軽減していくうえでも重要な存在だと思います。実際に地域とつながろうと思ったときに、コーディネーターがいない私たちの時には、教頭が張り切ってやるしかなかったというところがあったので、実績としてこういうコーディネーターの存在というのは大きいというふうにありますので、計画的に配置が進んでほしいと思います。人の配置というのは難しい問題ではありますけれども、計画性を持って、全学校に配置というようなことが進んでいかないと、計画には書いてあるけど違うというような話になってはいけないのかなと思います。

齋藤課長

ありがとうございます。

山本委員が先ほど言われた「学校を核とした地域づくり」、これは、文科省がしている「地域と共にある学校」という言い方もあると思います。「学校を核とした地域づくり」とは言いつつもそういった言葉も入れながら説明すると皆さんにとって分かりやすいかなと思いますので、そういったところを配慮しながら調整してまいりたいと思います。

それから、コーディネーターの配置です。これはやはり答申の中にも配置の充実ということで盛り込まれています。現時点、コミュニティ・スクールを導入している地域、学校においても、なかなか採用してもいろんな事情があって途中で辞められたというような状況もありまして、今小野地区と匹見地区がコミュニティ・スクールは入っていますが、コーディネーターは配置されていないという現状があります。先ほどの話も含めまして、配置ができるように教育委員会全体の中で調整してまいりたいと思います。

領家教育長

先日コーディネーターが集まる会がありましたので、1時間半ぐらいディスカッションしながら思いを聞いたり、どんな伴走をすれば頑張れるのかというようなことを伺いました。彼ら、彼女たちもいろんな思いを持っているので、そんなことを伺いながら教育委員会全体で力を合わせるなど意見交換してきました。新たな方もいらっしゃったりして、出会ったきっかけを伺うと夏フェスだとかそういう場面が大きいということも分かってきたので、そんなことも含めて今後また検討してまいりたいなと思っていますところでございます。そのほかいかがですか。

原田委員

先ほどの森脇委員さんの意見に関連してなんですけれども、パブリックコメントを募集するに当たって、コーディネーターって私たちの間ではこういう方だというのは分かっていますが、コーディネーターがいない小学校の保護者の方などは学校と地域をつなぐという一言だと分かりにくいかと思います。固定概念を外して、本当に初めて聞いた人も理解できて意見を言えるような言葉に変えるなり注釈をつけるなりしていただきたいなと思います。また、コミュニティ・スクールというのも、私の知っている保護者さんの中でコミュニティ・スクールと聞いてどういう制度か理解する人ってほとんどいません。私たちは分かっているけれども、一般の方が聞いたときに分からないという言葉は意外とたくさんあるのではないかと思いますので、皆さんが意見を伝えられるように伝える方のレベルももう少しみ砕いて分かりやすい表現に変換していただけるとありがたいなと思います。

齋藤課長

ありがとうございます。コーディネーターは来年度から名前が変わりますが、単純にコーディネーターと言っても原田委員さんが言われましたとおり伝わりにくいところがあるかもしれません。学校とその地域をつなぐと言っても何のということに確かになると思います。その辺りも計画策定の際には少し詳しく注釈をつけていくことを考えたいと思います。コミュニティ・スクール

についても、基本的に文部科学省が出している学校運営協議会制度という流れがあります。地域の方が学校に入って学校の運営に関わるという流れを何かしら初めての人でも分かる表現として計画の中に記載できる状況にしてまいりたいと思っています。

山本委員

そのときの注釈の仕方について、文部科学省が出している定義があると思いますが、そこに益田市としてはこういうふうに進めたいとか、益田市としてこう考えるとかというような言い方をしていただきたいと思っています。

領家教育長

文部科学省の定義をそのまま引用するのではなくてということですか。

山本委員

はい、そのまま引用するのではなくて、益田市教育委員会では、これまでいろんな活動実績がある中で、こういうことを期待しているとか、コーディネーターやコミュニティ・スクールはこういうイメージだという考え方ができつつあると思っています。そういったところを少し入れていただくと、より身近に感じられるのではないかなと思います。

それからもう一つの要望があります。コーディネーターと意見交換されて、どういう伴走が必要かというお話を聞かれたと思いますが、それをぜひ地域に返していただきたいです。コーディネーターが本当に頑張っているということは地域として分かります。けれども、地域としてどこまでどう支援していけばいいのか、分からないところもあります。ぜひそこはうまくそれぞれの思いがマッチングできると良いと思いました。

領家教育長

私が感じたのは、地域もそれぞれの地域があるように、コーディネーターさんそれぞれに背景とか個性とかみんな違うんです。だから、まずは自分を分かってもらうことがスタートで、分かってもらったからこそ伝えられる伴走方法というのが彼らにはあるということが思いとして聞こえてきました。例えば、実は幼児教育は一生懸命勉強してきたんだけど、社会教育についてはまだまだ不勉強な方がいて、でも地域から見たら、全部知っているんだと思われていて、それがさらけ出せなかったそうです。意見交換の際に、今言えたのでそういう伴走の仕方をしてほしいんです、というご意見がありました。逆に、社会教育が強い人たちは学校教育のことってあまり分からないんです、というようなことを言ってくれたりしました。だから、早く仲間になり、それから個々に応じた伴走の仕方、あるいは性格もあるので、それも含めて支援していかないといけないというのがやっぱり見えてきたところなんです。山本委員がおっしゃっていたようなこと、とても大

事だと思うので、そんな関わりを担当課で地域の皆さんにしてい
くとか、そういう伴走のための中つなぎというのは必要だとい
うことを感じたところです。今のご意見はご要望として承って、何
とか実現できるように努力したいなと思っています。ありがとう
ございます。

齋藤委員

この方針はこれでいいと思います。

ただ、全体的なことからすると、学校の勉強は何のためにする
のかというと、地域社会の中で生きていくための勉強だろうと思
っています。その地域社会の中で生きていくためには自立をして
いかななくてはいけないことと、いろんな人と話し合いをしながら社
会性を育てていかななくてはいけないのですが、今の子どもたちは
社会というものをほとんど知らないのです。学校教育は僅か十数
年ですので、その僅か十数年で得た知識だけでいきなり社会の中
へ放り出されるので、いざとなったときにどうしていいか分から
ないのが現実です。だから、現在の学校中心の教育ではなくもっ
と地域社会の中で本物を経験させ学ばせる機会が必要です。地域
には、年齢が違う人たちがいる、考え方が違う人たちがいるわけ
で、当然知らない人とも話をしなければなりませんし、自分の考
えを相手に伝えるためにはどうしたらいいかなどの工夫が求めら
れます。部活動の地域移行はいいチャンスだと思うので、地域の中
では子どもたちを受け入れてもらえるような人や場所をどんど
んつくっていくことが必要ではないでしょうか。

領家教育長

ありがとうございます。

今おっしゃったことについては、今度調査の勉強会もみんなで
しますから、そこでもまた議論をさせてもらいながら今後のビジ
ョンの作成に向けて議論させていただければと思います。

そのほかよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

領家教育長

では、この件につきましては、今いただきました皆さんのいろん
な思い、ご意見を踏まえまして次回の定例教育委員会の場で後期
計画案につきまして提案をさせていただこうと思いますので、ま
たご議論をいただければと思います。

領家教育長

それでは、本日予定しておりました議事全て終了いたしました。
これをもって第936回益田市教育委員会臨時会を終了
させていただきます。

=終了時間 17時30分=